



## この問題を解くために必要な力

文章の展開に即して場面の人物関係と心情の関係をとらえる力  
文章に展開に即して心情の変化をとらえる力  
文章から取り出した言葉を前後の語句に合わせてあてはめる力

## 誤答分析

- 1 描写を丁寧にたどって、心情を示す語句を取り出すことができない。
  - ・ 小問(2)  
「(野球は、)ひとりでやるスポーツなんだ(と思っていた)」のように、文章中にはない語句を使っている者が3人いる。描写をたどることができず、自分が思いついた語句を使って解答していると考えられる。
- 2 人物関係や価値観の対立を読み取ることができていない。
  - ・ 小問(1)  
文章中の人物関係をとらえられた生徒は11人で、全員であった。
  - ・ 小問(2)  
誤答4人は、対立するものとしてとらえているものの、「ひとり」対「チーム」と単純にとらえて解答している。また、誤答のうち、解答類型5は、「自分さえ強くあればよい」という考え方が入っていない解答である。ある生徒は、「(野球は、)チームがなくても、ひとりでできるものだ(と思っていた)」のように答えている。これは、文章中の野球に対する考え方に関わる部分「このボールをだれよりも速く投げること。向かってくる相手より強くなること。野球ってそういう単純なものではないのか。」の心中語に着目できず、「このボールをだれよりも速く投げること」「向かってくる相手より強くなる」という巧の心情を押さえられなかったものだと考えられる。表面的なことに注目するだけで、対立する考え方としてとらえることができていない。
  - ・ 小問(3)  
「ひとりじゃできん」を取り出すことができたのは、10人であった。  
場面展開のなかで人物の立場・関係をとらえることはできており、「ひとりじゃできん」を手がかりに対立する考え方をとらえる糸口は見つけている。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント  
平成21年度広島県基礎・基本定着状況調査 国語 三-4

【単元名】表現を味わおう「走れメロス」(第2学年)

調査結果からみる課題

【課題となる力】

- ・ 文章の展開に即して心情の変化をとらえる力
- ・ 場面の人物関係と心情の関係をとらえる力

【指導上の課題】

- ・ 文章の展開に即して描写を丁寧にたどり、心情を読み取っていくことを習慣づける指導が十分ではない。
- ・ 文章の展開にそって人間関係・事象を対照し、それを根拠として心情の変化を読み取らせる指導が十分ではない。

指導改善のポイント

文章に即して心情の変化を読み取る。

【指導の工夫】

心情を読み取るための視点を確認させる。  
多様な読み取りができる場面について、心情の変化を考えさせ、描写を確かめながら、自分なりの読み取りをさせる。  
対立する人物の対立点を描写に即してとらえさせる。

心情を読み取るための視点を確認させる。

会話文・行動・心中語・表情・情景描写などの視点があることを確認させたうえで、心情の読み取りをする。

多様な読み取りができそうな場面を取り出して、自分なりの読み取りを尊重する。

全文を通読して感じた生徒の率直な疑問や、読み取りのゆれがあるところを取り上げ、交流の動機付けにする。

自分なりに感じたことのよりどころをしっかりと探して引用させる。

対立する人物の言動や様子を対照させ、二人の違いを明確にとらえさせる。

文章中に傍線を引かせるとともに、ワークシートを工夫して人物の言動や様子を対照しながら、心情の変化をとらえさせる。

## 中学校第2学年 国語科学習指導案

### 単元名：走れメロス（読むこと）

- 1 日時 平成21年12月14日（火）第5校時（13時30分～14時20分）
- 2 場所 第2学年教室
- 3 学年 第2学年（男子6名 女子5名 計11名）

## 単元について

本単元は、中学校学習指導要領C読むこと（第一学年）ウ「文章の中心の部分と付加的な部分，事実と意見などを読み分けて，文章の構成や展開を正確にとらえ，内容の理解に役立てること。」を踏まえ，C読むこと（第二・三学年）ウ「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。」，同工「文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の考えを持つこと。」を身に付けさせることをねらいとする。

文学的文章では，人物の言葉をはじめとして，文章の構成・展開，情景描写，文体，修辞技法など主題を表現するために，さまざまな手法を取り入れて工夫されている表現の特徴をとらえることは，作品の主題に迫るために不可欠である。こうした表現の工夫を読み味わうことを通して，人間や社会について自分なりの考えをもつことがねらいである。

本単元では，登場人物であるメロスや王の心情が対立し，大きく変化していく場面に注目し，彼ら二人の言動や情景描写を根拠として，心情やものの見方・考え方を自分なりにとらえ，それについて自分の意見や感想を持つことをねらいとする。

## 調査結果からみる課題

誤答分析から

平成21年度「基礎基本定着状況調査」国語 三・4 小問2

(1) 問題の概要

小説中の対話の場面から，心中語と会話文を手がかりに登場人物の心情の変化をとらえる。

(2) 出題の趣旨

文章の展開に即して登場人物の心情を的確にとらえる。

(3) 誤答分析

描写を丁寧にたどって，心情を示す言葉を取り出すことができない。

「(野球は，)ひとりでやるスポーツなんだ(と思っていた)」のように，文章中にはない語句を使っている。描写をたどることができず，自分が思いついた語句を使っている。

人物関係や価値観の対立を読み取ることができない。

ほとんどの生徒は人物の立場・関係をとらえ，対立する考え方の糸口は見つけている。しかし，一部の生徒は，対立するものを「ひとり」対「チーム」というように表面的なことだけに注目し，対立する考え方をとらえることができていない。

これは，文章中の野球に対する考え方に関わる部分，「野球ってそういう単純なものではないのか。」の心中語に着目できず，「このボールをだれよりも速く投げること」「向かってくる相手より強くなる」という巧の心情を押しえられていない結果であろう。

心情の変化を読み取っていくとき，描写を手がかりにして，相対する考え方まで読み取る力が必要である。

## 指導改善のポイント

### (1) 指導内容・指導方法について

文章に即して心情の変化を読み取ることを身に付けさせるために、次のような指導改善をする。

心情を読み取るための視点を確認させる。

会話文・行動・心中語・表情・情景描写などの視点があることを確認させ、うえで、心情の読み取りをする。

多様な読み取りができそうな場面を取り出して、自分なりの読み取りを尊重する。

全文を通読して感じた生徒の率直な疑問や、読み取りの揺れがあるところを取り上げ、交流の動機付けにする。

自分なりに感じたことのよりどころをしっかりと探して引用させる。

対立する人物の言動や様子を対照させ、二人の違いを明確にとらえさせる。

文章中に傍線を引かせるとともに、ワークシートを工夫して人物の言動や様子を対照しながら、心情の変化をとらえさせる。

### (2) 研究主題とのかかわり

本年度の本学区の研究主題「主体的に学び、表現できる児童生徒の育成 ～小中9年間を見通した一貫性と多様性のある指導方法の工夫改善を通して～」を受け、国語科では、多様な表現手法を用い自己表出する機会を多く設定し、自分なりの考えを交流し、練りあい、高め合わせたいと考える。

本単元では、「読むこと」にかかわって、自分の意見をより確かなものにするため、よりどころとなる部分を確認めあわせることで、根拠を示しながら説明する力を付けて行きたい。

## 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情をとらえ、自分の考えや行動と照らし合わせて、考えたことを人に伝えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明や描写などの表現の仕方や文体などの特徴に注意して読んでいる。</li> <li>・登場人物の心情をとらえて生き方や考え方を読み取り、人間・社会・自然に対する自分の感想や意見をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的な概念などを表す多様な語句について辞書などを活用し、知識を広げようとしている。</li> </ul>

## 指導と評価の計画

(全 6 時間)

次	学習内容(時数)	評 価				評価方法
		関	読	言	評 価 規 準	
一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を通読して、物語の概要と人物関係をつかむ。(1)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しを持ち、課題に意欲的に取り組もうとしている。</li> <li>・文脈の中における多様な語句についての理解を深め語彙を豊かにする。</li> </ul>	観察 ワークシート
二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・王とメロスの対決場面から、それぞれの心情を対照してとらえる。(1)</li> <li>【本時】</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・王とメロスを対照しながら、手がかりとなる表現をもとに王やメロスの人物像や心情をとらえている。</li> </ul>	ワークシート
三	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メロスの心情の変化を、描写に即してとらえる。(1)</li> <li>・王の心情の変化を、描写に即してとらえる。(1)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・メロスが村から走る場面の行動の様子と心のつづやきを結び付けて、メロスの心情の変化をとらえている。</li> <li>・メロスとの関わりをとらえ、いくつかの手がかりとなる表現と結びつけて、王の心情の変化をとらえている。</li> </ul>	ワークシート
四	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「王の心は、本当に変わったのか」の疑問を、文章に即して考える。(1)</li> <li>・「メロスは勇者か」の疑問を、文章に即して考える(1)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説の前半部分と結末部分とを対照して、王の心の変化が本質的なものかどうかをとらえる。</li> <li>・メロスの行動とその結果から、メロスの成し遂げたことをまとめ、「勇者」にあてはまるかどうか評価している。</li> </ul>	ワークシート

## 本時の学習

(1) 本時の目標

王やメロスの人物像や心情を，二人を対照しながら，手がかりとなる表現をもとに的確にとらえている。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 本時の目標を確認する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の振り返りをする。</li> <li>・ 本時の目標を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の授業でみんなから出た疑問「王は，本当に悪い人なのか」に答えていく授業を進めることを伝える。</li> </ul>		
対決場面の二人の心情を読み，「王は，本当に悪い人なのか」の疑問に答えよう。			
2 心情を読み取るときの視点を確認する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の気持ちが分かるところはどんなところか，視点を確認めめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会話文・心のつぶやき・行動・表情の表現に加えて，色彩表現にも視点をあてることを板書して整理する。</li> </ul>		
3 場面2メロスと王が対決する場面を音読し，二人の対立点を読み取る。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この場面を音読し，二人の対立がはっきりしている場面をさがして，対照的な会話文を取り出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感情が激しくなっているところを探させ，傍線を引かせる。（「激怒」という言葉を手がかりにさせる。）</li> <li>・ その場面を3人グループで音読して確かめさせる。</li> <li>・ その場面のぶつかり合っている会話文を抜き出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メロスと王の感情が分かる表現を意識して音読している。</li> </ul>	観察
4 心中語・表情・行動の描写にも注目して心の揺れを読み取る。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 王の「人は，信じてはならぬ」という心は，揺れていないのかについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず，「メロスは本当に王を殺そうとしたのか」について，描写に注目させ，「人を信ずることができぬ」と人を殺す王を殺すと「のそのそ」王城にやって来ていることを確かめる。</li> <li>・ 次に，王の表情や，声の調子をつかみ，それがどのような心情によるのか，考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分なりに，表現を手がかりに王の心情を考えている。</li> </ul>	ワークシート
5 まとめ，次の時間への見通しをもつ。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心情を読み取る視点をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視点をカードにしたものを掲示して示す。</li> <li>・ 次の時間は，視点を広げて心情を伝えている表現にふれていくことを予告。</li> </ul>		

# 検 証

## 検証の方法

事前：平成 21 年度「広島県基礎・基本定着状況調査」国語 三-4

読むことウ

事後：平成 21 年度「広島県基礎・基本定着状況調査」国語 三 に準拠した自作評価問題を作成し、文章の展開に即して登場人物の心情を的確にとらえる力の変容を見る。

事前調査の結果課題として明らかになった「心情の変化を文章に即してとらえること」【三-4-(2)】(通過 11 人中 4 人) について、評価問題では通過 11 人中 9 人をめざす。

検証のための問題

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(あさのあつこ) バッテリーによる。

4 次の文章を読んで二人の生徒の会話です。あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

正木 「この場面の登場人物は、中学一年生の巧たくま。その祖父の洋三やうさんの二人だけど、話題のなかで、巧の弟で小学校四年生の青波と、巧の同級生で友達の豪たけという人物もでてくるね。この場面で、「A」と「B」が対立しているようにだけど、この場面の前に、何があったのかな。」

町田 「特に衝突したとかじゃないんだよ、それはね、この日、出会ったばかりの「A」と豪は、初めてキャッチボールをしていたんだ。そこへ、「B」から、稲村いなむらという人の相手をしてやれと言われ、「A」は、本気で投げたんだ。「A」は、甲子園の経験がある稲村を、J高じこうん中の玉でゴロに打ち取ったんだよ。そして、そのとき、身体が強い「C」も、初めてグラブを持たせてもらって、野球をしたいと思いを始めたんだ。」

正木 「それで、ここでは、身体が強い「C」に野球ができるかどうかで、「A」は「B」に反発しているんだね。「B」は、「身体が弱くとも野球はできる。粗人ろにんより強い身体をもっとやるやつだけが、野球を楽しめると思う」とか「野球は、楽しむもんじゃ」と言って、楽しんで野球をやる「C」のような子がうまくなるって考えているようだね。それに対して、「A」は、「楽しむ野球なら「C」にもできるよ」と言っているけど、これは、「C」には本当の野球はできないと言ったことになるね。」

町田 「「A」は、「野球は、1」  
という思いを確かにしたんだろうね。だからこそ、「A」は、「自分を見て欲しい、自分の球を見て欲しい、自分のような球を投げられるものこそ、野球が2」  
」と思っているんだ。ここは、二人の野球に対する思いの違いが読み取れるところだね。」

(1) 「A」と「C」にあてはまる人物を次の中からそれぞれ選び、記号で書きなさい。  
ア 巧 イ 洋三 ウ 青波

(2) 1には後の文に続くように登場人物の気持ちを書きなさい。  
2には、「B」が言った言葉が入ります。文章の中から五文字抜き出しなさい。

## 検証結果

事前調査においての課題は、「心情の変化を文章に即してとらえること」であった。これについて前述の事前事後の調査を比較すると、次のようになった。

全体の傾向

【事前】平成 20 年 6 月 (調査人数 11)

通過人数 (1) 11 人, (2) 4 人 (網掛け部分), (3) 10 人

解答類型		1	2	3	4	5	9左記以外	無回答
通過人数	(1)	11	0	0	0	-	0	0
	(2)	1	2	1	0	3	1	3
	(3)	10	0	0	-	-	0	1

【事後】平成21年12月（調査人数11人）

通過人数（1）11人，（2）8人（3）6人

解答類型		1	2	3	4	5	9左記以外	無回答
通過人数	(1)	11	0	0	0	-	0	0
	(2)	4	2	1	0	0	2	1
	(3)	6	2	0	-	-	3	1

(2)については、正答者が3人増加し、無答者が3人から1人に減少している。

(3)については、正答者が4人減少している。

個の変容

- ・生徒A...文章中の描写を手がかりにしていなかった生徒

一人でやるスポーツなんだ	⇒	体の強いやつにしか野球はできない。青波にできるもんか。
--------------	---	-----------------------------

文章中の語句を使うことはできた。後の文に適切につながる内容にはなっていない。

- ・生徒B...文章中の内容をとらえはいるが不十分な生徒

野球チームをわざわざつくらなくてもピッチャーとキャッチャー，打つ人がいればできる	⇒	自分のような才能のあるものだけが野球をやっていたらいいし，ないものはやらなくていい
--	---	---

文章中の語句を使っていないが，心情の核心にふれている。

- ・生徒C...無答であった生徒

(無答)	⇒	強い身体の人しか上手にできない。ぼくは青波や豪より上手に野球をできるんだ。
------	---	---------------------------------------

文章中の語句をそのまま使ってはいないが，内容に即して答えている。

- ・生徒D...無答であった生徒

(無答)	⇒	あまい物じゃない。
------	---	-----------

心情を文章の内容に即して読み取っていない。

- ・生徒E...文章中の語句をそのまま引用していた生徒

このボールを投げること。向かってくる相手より強くなること。野球って単純なもの	⇒	楽しむもんじゃ，それだけじゃ。楽しまんや野球やとってなんになる。つぶれるだけじゃ
--	---	--

事前・事後とも引用しているだけだった。事前問題には，引用できる妥当な部分があり，正答している。事後の問題では，引用だけで正答にはできないことでとまどい，会話文の話者を取り違えて，誤答していると考えられる。

## 分析・考察

心情を読み取るときに，文章中に手がかりを求めて考えることについては，一定の進歩が見られる。

会話文の主体を間違っていると考えられる生徒もいる。会話文を丁寧に読み取ることが必要である。

文章の内容をまとめたり，適切に置き換えたりして答えることについては課題がある。